

3・11 原点に立ち返り選ぶ

大学特任教授 小原 孝夫

(神戸市西区 66)

衆院選で各党各候補者は多くのキーワードを含む政策のPRに懸命だった。マスコミ

は環太平洋経済連携協定(TPP)、消費税、経済政策、外交などの課題と同列に「原発」を扱っていた。だが、私はそれが奇異に感じられた。

私は「脱原発」を第一の選択肢として政党群を選び、その群の中から主張する政策の違い、実行力、実現性を鑑みて候補者選びをしたい。「原発」は、ほかの政策と明らかに次元の異なる全人間的かつ倫理的問題が絡むからである。

今夏の電力需要は原発なしでもまかなえるはずだったこ

と、使用済み核燃料最終処分場の候補地すらあがないことを考えると、今後の原発稼働の必要性はないだろう。

福島第一原発事故後、「原発なしでは電力が足りない」「再生可能エネルギーは供給が不安定だ」など、脅しにも近い論が登場している。もう一度、

3・11の原点に戻り、原発再稼働阻止はもちろん、脱原発、あるいは即時廃棄を明確にした主張を支持したい。それが、地震国日本からの国際社会へのメッセージでもあるし、子孫への償いになると信じる。万一の原発事故に「想定外」という言葉はない。選挙対策のため「あいまいな脱原発論」に惑わされないようにしたい。